

生活機能分類普及推進検討ワーキンググループの令和元年度の活動状況報告

1. 生活機能分類普及推進検討ワーキンググループについて

生活機能分類普及推進検討ワーキンググループ（以下、「WG」とする。）は、WHO が平成 30 年 6 月に公表した国際疾病分類第 11 回改訂版（以下、「ICD-11」と言う。）に新たに生活機能評価に関する補助セクション（第 V 章）を設けたため、平成 31 年 3 月に開催された第 19 回社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会において、生活機能のレベルの定量化等の必要な検討について実務者レベルでの具体的な対応が求められたため設置された。

2. WG の審議事項及び開催状況

本 WG は、令和元年 6 月 19 日に実施した第一回の会議において、以下を審議事項とすることで合意した。また、活動を行うにあたり、フィールドテスト班、教育ツール班、分類更新・翻訳班及びリコード班の 4 つの検討班を組織し、WG の構成員はそれぞれの検討班に所属して班別に個別テーマごとの検討を進めることとした。

（WG の審議事項）

- ① WHO が刊行する ICF 資料に関する翻訳案の作成
- ② ICD-11 第 V 章を国内適用するにあたって、具体的な活用案（フィールドテスト等を含む）の検討
- ③ WHO から提案される ICF 年次改正案に対する日本からの意見提出案の検討
- ④ その他

（WG の開催状況）

回・開催日	検討内容
第 1 回 令和元年 6 月 19 日	具体的な活動内容の検討、活動班の班分け
第 2 回 令和元年 9 月 12 日	各班の 2 年間の活動計画、活動班の役割分担
第 3 回 令和 2 年 2 月 18 日	各班の 1 年間の活動状況の確認

3. WG の主な活動の状況及び今後（令和 2 年度）の対応

WG における現時点までの検討状況及び今後の対応予定は、以下のとおりである。

（１）ICD-11 「V 章生活機能評価に関する補助セクション」のフィールドテストに向けた対応

V 章の有用性、妥当性検証のために国内におけるフィールドテスト実施へ向け、必要な資料を検討し、素案の作成を進めている。今後は、以下の資料の作成を進めるとともに、検者間の信頼性の確保等も検討しながら、ICD-11 V 章に関するフィールドテストを実施する予定である。

（これまでの対応）

- ア. V 章の各項目の情報収集手法の確定：V 章が、WHO-DAS、Model Disability Survey (MDS)、Generic Functioning Domains の 3 つの構造からなるところ、既存の質問紙の活用、新規の質問紙の作成など、情報収集手法の確定を行った。
- イ. V 章の各項目の翻訳：ワーキンググループ案を作成し、第 19 回社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会へ提出した。
- ウ. V 章の各項目について簡潔で直感的な説明文の作成：支援ツールとして、フィールドテストの対象者に分かりやすい説明文を作成した。
- エ. V 章の教育ツールの作成：プロトタイプを作成を行い、今後も作業を継続予定である。

（今後の予定）

- オ. 採点リファレンスガイドの作成：同一の症例を複数人で評価する等のプロセスを通じて、評価を行う際のガイダンス資料を作成する。
- カ. フィールドテストの実施

（２）ICF に関する対応

① ICF の改正への対応

ICF の改正提案について、WHO-FIC の分類・統計諮問委員会（CSAC）で採決がなされるところ、以下の対応を行っている。

（これまでの対応）

- ア. 2019 年の改正提案への日本としての対応案作成に協力した。

（今後の予定）

- イ. 2019 年採択案件の日本語への翻訳作業を行う。
- ウ. WHO から ICF の 2020 年版の公表が予定されているところ、継続して情報収集を行う。

② 既存の評価手法の ICF コードへのリコード

生活機能に関係する既存の評価手法が多数存在するところ、既存の評価手法について ICF の分類をリコードする作業を実施している。

(これまでの対応)

- ア. 諸外国で行われているリコードに関する研究成果のとりまとめ。
- イ. リコードに関する基本的なルールの作成。
- ウ. 上記に基づき、要介護認定項目、FIM (Functional Independence Measure、機能的自立度評価法)、BI (Barthel Index、基本的日常生活動作の機能的評価) の項目対応リコードテーブルの作成 (今後も継続予定)。

(今後の予定)

- エ. リコード普及推進に向けたリコード辞書 (案) の開発に向けた検討

③ ICF の教育に関する対応

ICF の普及教育のための調査及び資料の作成を行っている。

(これまで及び今後の対応)

- ア. ICF の国内外の教育の現状のまとめ：資料収集を行うとともに、医療職における教育の現状に関する調査を行った。
- イ. WHO-FIC 生活機能分類グループが作成し、普及教育委員会が普及を担当している ICF e-learning ツールの翻訳準備を進めている (今後、翻訳を実施予定)

4. その他の活動

- 第 8 回 ICF シンポジウムを企画し、令和 2 年 1 月 18 日に開催した。応募者は、400 名を超えたが当日の悪天候により 300 名弱の参加となった。ポスターは、17 題を選定した。
- ICF 情報集約サイトの構築に向けた情報収集を行い、4 月の公開を予定している。

(参考) 構成員名簿

① フィールドテスト班

☆向野雅彦、浅川育世、大冢賀政昭、近藤和泉、村井千賀、横堀由喜子

② 教育ツール班

☆出江紳一、浅川育世、向野雅彦、村井千賀、森田秋子、横堀由喜子

③ 分類更新・翻訳班

☆山田深、大冢賀政昭、小松雅代、近藤和泉、向野雅彦、森田秋子、
横堀由喜子

④ リコード班

☆大冢賀政昭、出江紳一、小松雅代、向野雅彦、山田深、横堀由喜子

☆は、班長